



Vol.38

2016 AUTUMN

# まんだらげ

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

Photo : 生石高原(紀美野町)



## Contents

特集/進化する最先端医療

手術支援ロボット、ダヴィンチ

TOPICS/NIPT 診療開始

筋萎縮性側索硬化症の

神経変性メカニズムを解明ほか

診療科紹介/眼科、産科婦人科

教授就任挨拶

### 理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

### 基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめその成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

# 進化する最先端医療 手術支援ロボット、ダ・ヴィンチ ロボットによる腎悪性腫瘍切除術が保険適用に



今年4月、手術支援ロボットを使用した腎がんの部分切除術に保険が適用されることになりました。当院では2年前から手術実施に必要な施設基準を満たすための取り組みを行い、施設基準を取得したことから、5月から保険適用による手術を開始しました。

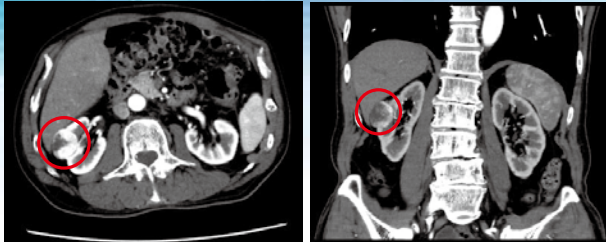
腎がんは、初期の段階ではほとんど症状が現れないため、これまでは見つかりにくいがんのひとつとされてきました。血尿や腹痛、腹部のしこりなど、何らかの自覚症状が出るころには腫瘍が大きくなって、ある程度症状が進んでいることが少なくありませんでした。

最近ではCTやエコーの普及に伴い、健康診断や人間ドッグなどで小さい腎がんを発見することが多くなってきました。腎がんは他のがんと違って抗がん剤や放射線治療が効きづらく、治療方法としては手術が第一の選択肢です。従来、腎がんに対しては腎臓を全て摘出する腎摘除術を行っていましたが、小さい腎がんの増加に伴い、腎機能を保護するために腎部分切除術を行うことが多くなっています。また、その方法も開腹手術から腹腔鏡による手術が中心になっていま



和歌山県立医科大学泌尿器科・原勲教授

す。腎臓は無数の細い血管を有しているため、出血をコントロールする目的から、腎部分切除術では一時的に阻血(血流を遮断すること)を行う必要があります。腎機能を温存するためには30分以内の阻血が望まれ、その時間内で確実に腫瘍を切除、尿路系を修復、出血のコントロール(血管及び腎縫合)を行わなければならない、腹腔鏡で行うには高度な手技を必要とします。



右腎臓の腫瘍陰影(腹部CT画像)



記者発表風景

## 手術用ロボット「ダヴィンチ」を用いがんの精密で安全な手術が可能に

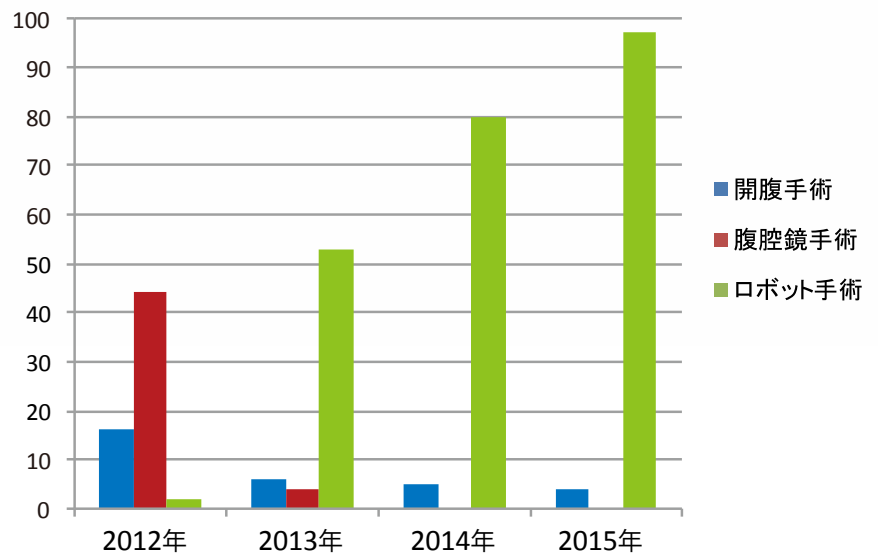
泌尿器科の原勲教授は6月に行われた記者発表で「腫瘍径4センチ以下で外方突出型の腫瘍が腎部分切除により適応とされています。これまで主流であった腹腔鏡手術に比べ、ダヴィンチによる手術は高解像度の3D-CT画像を見ながら、人間の手の関節以上の自由度を持つ鉗子を用いるため、精密な切開や縫合を素早く行うことができます。腹腔鏡で難しいとされた血管の近くにある症例でも、開腹せずに短時間で安全な手術が可能です。患者さんにとっては傷が小さく術後の回復も早いというメリットがあります。」と説明しました。

当院では平成24年12月にダヴィンチを導入し、前立腺全摘除術に使用してきました。以前は、開腹や腹腔鏡で行っていた手術が現在ではほとんどがダヴィンチによる手術となり、今では年間100件近くの手術実績を有しています。腎部分切除術については年間20~30件程度の施行を見込んでいます。今後も3名の泌尿器科腹腔鏡技術認定医(日本泌尿器科学会、日本内視鏡外科学会、日本泌尿器内視鏡学会公認)が中心となり安全で最先端の医療を地域住民の方々に提供してまいります。



コンソールに座った医師がダヴィンチを遠隔操作し、3Dモニターに移る画像を見ながら手術を行う

当院における前立腺全摘除術実施件数の推移



## NIPT 診療開始

遺伝外来では6月から母体血を用いた出生前遺伝学的検査(NIPT)のカウンセリング及び検査を開始しました。NIPTとは妊婦さんの血液から赤ちゃんが染色体疾患であるかどうかを調べるものです。

受診を希望される方は、まず、県内のかかりつけの産婦人科又は分娩取扱施設にご相談ください。その

後、当院で臨床遺伝専門医によるカウンセリングを受け、希望する方に対してはNIPT検査を行います。

カウンセリングでは遺伝性疾患に関する遺伝学的情報の提供や、その結果についての説明を行います。ご本人やご家族の選択がより納得できるものになるようサポートしてまいります。

<b>外来日</b>	毎週水曜日 9時～12時(祝日、12月29日～1月3日を除く)
<b>予約</b>	完全予約制(診療所あるいは病院からの予約のみ受付けています)
<b>調べることのできる染色体疾患</b>	21トリソミー(ダウン症)、18トリソミー、13トリソミー
<b>対象となる方</b>	NIPTをご希望の方は下記の少なくとも一つに該当する必要があります。 ・高年妊娠(分娩予定日35歳以上)の妊婦さん ・21トリソミー(ダウン症)、18トリソミー、13トリソミーの赤ちゃんを妊娠あるいは出産したことのある妊婦さん ・胎児が21トリソミー(ダウン症)、18トリソミー、13トリソミーである可能性が高くなっていることが指摘されている妊婦さん
<b>注意点</b>	この検査は確定検査ではありません。確定診断には羊水検査などの追加検査が必要です。 また、この検査に必要な費用は、原則的に全て保険適応外の自己負担となります。



## 筋萎縮性側索硬化症の神経変性メカニズムを解明

神経内科の伊東秀文教授らの研究グループは、大阪市立大学医学部、東京大学理学部などの研究チームとともに、神経系の疾患、「筋萎縮性側索硬化症(ALS)」の研究を行い、ALS発症メカニズムの一端を明らかにして、ネイチャーコミュニケーション誌に発表しました。

ALSは、運動神経細胞(ニューロン)が侵される進行性の病気です。筋肉そのものの病気ではなく、筋肉を動かし、運動をつかさどるニューロンだけが侵される病気で、多くは意識がはっきりしたまま四肢の筋力低下により、歩行困難や寝たきりとなり、呼吸不全に至りますが、現在は根本的な治療法はなく、難病のひとつに指定されています。

伊東教授は9月に行われた記者発表で「今回の研究でALSの原因遺伝子であるオプチニューリンが、ユビキチンという低分子タンパク質が特異的な連結をした直鎖状ユビキチン鎖に結合し、細胞内で炎症や免疫の制御を中心となって行うNF-κBというシグナ

ル伝達経路を抑制することにより細胞死を防いでいることを突き止めました。実際にALS患者のニューロンではNF-κBが強く働きすぎ、細胞死が進んでいました。つまりオプチニューリンは細胞の生と死のシグナルを制御しており、その破綻がALSを発症させます。」と説明しました。和歌山県は国際的にみてもALSの発症が多く、研究成果は治療薬開発の手掛かりになるだけに期待が寄せられます。



ALSの研究成果を発表する神経内科・伊東秀文教授

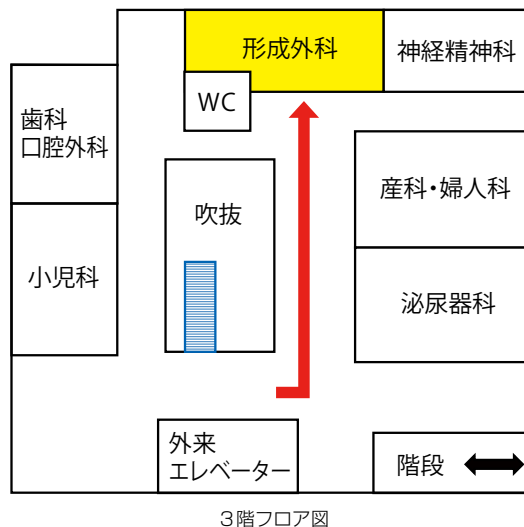
## 形成外科 外来中央棟3階へ移転

昨年7月に形成外科が開設され、約1年が経過しました。

現在、新患外来患者数も手術件数も増加してきております。

当科では、傷痕の修正、頭蓋顎顔面外科(顔面骨折など)、がん切除後の再建外科(頭頸部がん、乳がんなど)、眼形成外科(眼瞼下垂症、眼瞼内反症など)、血管腫・血管奇形の治療など、さまざまな疾患に対応しています。

9月1日に外来が4階から3階へ移転したことに伴い、医療機器・設備を充実させました。今後も質の高い最新の医療を提供できるように努力いたします。お気軽にご相談ください。



## 認定看護師合格者紹介

### 感染管理認定看護師合格



感染制御部 小谷 智美

医療技術の進歩により多くの感染症の予防や治療ができるようになりました。感染管理には看護師だけでなく、医師や薬剤師、検査技師などの多職種が、それぞれの専門性を活かして感染症の予防や治療に携わっています。

院内における感染管理では、患者さんと医療従事者だけでなく、患者さんの家

族や面会者など病院に出入りするあらゆる人々を感染から守る必要があります。そのためには感染症の発生を事前に防止することや、発生した感染症を広げないことが重要です。感染管理認定看護師は、医療関連感染の予防と管理を実践すること、指導や相談に対する問題解決に向けて支援するスペシャリストです。

今後も、感染管理認定看護師として、地域の感染症の把握や感染管理に関する専門的な知識や技術などを吸収し、多職種と協働しながら院内の感染管理に携わっていきたいと思います。

### 救急看護認定看護師合格



高度救命救急センター  
救急外来  
生駒 雄太郎

私は、採用後ICUでの勤務を経て、現在は救急外来で勤務しています。経験年数7年目で認定看護師の道に進みました。

救急看護認定看護師は高い技術と豊富な知識を兼ね揃えた、救急看護のスペシャリストです。あらゆる年齢の患者さんの特徴を踏まえ、迅速かつ的確なフィジカルアセ

スメントを実践します。また救急患者の病態に応じて、問題の優先順位を迅速に判断し、適切な初期対応技術を実践します。

私達看護師は、患者さんの傍で最も多くの時間を過ごし、変化に気づき支援する力をもっています。この“力”を磨く事が患者さんを救う安全な看護に繋がると考えます。今後は救急外来での看護の充実のみならず、院内全体で状態変化に気づくことの出来るアセスメント力や救急対応技術の向上を目標に活動していきたいと考えています。日々、看護力を磨き地域の皆様を支える救急看護を実践します。

## 教授就任挨拶



外科学第一講座 教授  
西村 好晴

この度、平成28年6月1日付けで和歌山県立医科大学外科学第一講座の教授を拝命いたしました。大変光栄なことと感じております。私は和歌山市生まれで和歌山県立医科大学を卒業後、県内外の関連施設で研鑽し、平成14年から外科学第一講座(心臓血管外科)で狭心症、弁膜症、大血管などの手術を担当してきました。特に大動脈瘤の分野では放射線科との協力のもとステントグラフト内挿術を導入し、できるだけ負担の少ない治療をめざしています。心臓や大血管の病気の中には緊急性の高いものが多く、当科では県下全域からの救急に対して24時間態勢で対応しており、県民の皆

様に安心して質の高い治療を受けてもらえるように今後とも努めていきたいと思っております。

外科学第一講座は心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科の3部門から成り立っています。呼吸器外科では肺癌に対する完全内視鏡下手術、乳腺外科では乳がん術後の乳房再建など最新の治療を導入しております。この3部門がそれぞれの特徴を生かしつつ協調していけるようにしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

### 経歴

- 昭和62年 和歌山県立医科大学医学部卒業  
和歌山県立医科大学胸部外科入局
- 平成 元年 社会保険紀南総合病院外科勤務
- 平成 3年 国保すさみ病院外科勤務
- 平成 5年 和歌山県立医科大学第一外科助手
- 平成10年 岸和田徳洲会病院心臓血管外科勤務
- 平成14年 和歌山県立医科大学第一外科助手
- 平成16年 和歌山県立医科大学医学部外科学第一講座講師
- 平成28年 和歌山県立医科大学医学部外科学第一講座教授

## 教授就任挨拶



内科学第二講座 教授  
北野 雅之

平成28年7月1日付けで、和歌山県立医科大学内科学第二講座(消化器内科)の教授職を拝命いたしました。伝統と実績のある本学の診療・教育・研究に従事させていただくことを大変光栄に感じるとともに身の引き締まる思いです。

消化器内科は急性期疾患が多く、フットワークの軽い診療姿勢が重要です。教室員とともに、和歌山県・大阪府泉南地域内で発症した消化器疾患の患者さんをできるだけ早急に受け入れ、高度かつ最善の医療を提供できるよう努力していきます。これまで内視鏡および超音波等を用いた診断・治療法を、世界に先駆けて研究開発し、臨床応用してきましたが、本学においても、消化器病診療の全領域にわたり、最先端診療を

実践していきたいと考えております。

また、和歌山県の地域医療を充実させ、消化器疾患の診療レベルをさらに向上させることにより、県民の健康増進の一助となるよう努めていく所存でございます。特に、「きのくにプロジェクト」と称した膵癌早期発見の地域医療連携システムを構築することを計画しております。どうぞよろしくお願いたします。

### 経歴

- 平成 2年 鳥取大学医学部医学科卒業
- 平成 2年 鳥取大学医学部第二内科入局
- 平成 6年 鳥取大学大学院医学研究科博士課程修了
- 平成 6年 鳥取大学医学部附属病院第二内科医員
- 平成 8年 スウェーデンLund大学薬理学教室客員研究員
- 平成10年 鳥取大学医学部臨床薬理学講座助手
- 平成12年 近畿大学医学部消化器内科助手
- 平成13年 近畿大学医学部消化器内科病院講師
- 平成15年 近畿大学医学部消化器内科医学部講師
- 平成17年 近畿大学医学部消化器内科講師
- 平成19年 近畿大学医学部消化器内科准教授
- 平成28年 和歌山県立医科大学内科学第二講座教授

# 診療科紹介

## 眼科

### 和歌山県の眼科医療は 私たちが支えます

教授 雑賀 司珠也

五感（視、聴、触、味、嗅）の中でも視覚はクオリティーオブライフ（生活の質）にきわめて重要です。

私どもは最新技術と熟練した手術で治療にあたっています。もっとも多い白内障では、20年以上前からほとんどを日帰り手術で治療しています。この数年では先駆的に網膜の疾患（網膜前膜、眼底出血など）でも、日帰り手術を約25%で導入しています。増加傾向にある加齢黄斑変性症などのいくつかの眼疾患に対しては特殊外来で診察をしており、日帰りによる眼内（硝子体）薬剤注射やレーザーなどで積極的な治療を行っています。小児眼疾患では新



生児から小児期までを専門外来で担当していますが、紀北分院眼科の「こども外来」との連携などで地域医療の充実を心がけています。

県内最高医療機関としての責任ある治療を心がけると同時に、より身近な地域医療の発展のために、附属病院でのノウハウを関連施設に積極的に普及することに努めています。

## 産科婦人科

### 安全で信頼される産婦人科医療を チーム全員で実践します

教授 井篁 一彦

『県内でお産難民、がん難民をつくらない』をモットーとして掲げ、患者さんとの信頼関係を大切にしながら、科学的根拠に基づいた安全かつ最新の医療を提供しています。

産科分野では県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、県内全ての重症妊産婦の搬送を24時間全例応需で対応しています。遠方場合はドクターヘリによる母体搬送も行っており、“最後の砦”としての使命感を持って治療に当たっています。

婦人科領域では県のがんセンター的役割を果たすべく、年間100例以上のがん患者さんの治療にあたり、治療前のPET/CTによる評価、子宮頸がんに対する広汎子宮全摘術や最新機器を用いた



同時化学放射線療法、子宮体がん・卵巣がんの手術や抗がん剤治療も数多く施行しています。また良性疾患に対しては腹腔鏡手術も行い、患者さんに負担の少ない治療を心がけています。産婦人科はお産や緊急帝王切開などチーム医療が欠かせないので、医師・助産師・看護師などスタッフ全員がチームワークを大切にして常に最適な医療を提供できるように努力しております。

## 予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。  
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

### ■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターにFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

患者支援  
センター

FAX番号: 073-441-0805  
受付時間: 月・火・水・金 9:00～19:00  
木 9:00～17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

### ■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。  
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約  
センター

電話番号: 073-441-0489  
受付時間: 月～金 8:30～16:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

## 院内での携帯電話(スマートフォン等)の使用緩和について

当院では、国から公表された「医療機関における携帯電話等の使用に関する指針等」に基づき、院内での携帯電話・スマートフォン等の使用ルールを平成28年10月から改めました。

- 「電源OFFエリア」では電源をお切りください。  
それ以外の場所では、マナーモードに設定してください。
- 通話は、「使用可能エリア」をお願いします。
- プライバシー保護のため、職員の許可なく院内での動画・写真撮影はできません。

携帯電話を使用されるときは院内掲示のポスターをご覧ください、診療の妨げや周囲の方で迷惑とならないようご協力をお願いします。

院内では、必ずマナーモード  
に切り替えてください。  
使用ルールを守りましょう。



### 患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診療をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

### 患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

### <外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。